東京ドキュメンタリー映画祭2023

見えるようで見えない
〝世界のいま〟を凝視する！

12.9 Sat — 22 Fri
新宿 K's Cinema

長編部門コンペティション審査員	代島治彦／まつかわゆま
短編部門コンペティション審査員	佐々木誠／伊津野知多
人類学・民俗映像コンペティション審査員	北村皆雄／奥野克巳

お客様の投票による「観客賞」もあります

ARTS COUNCIL TOKYO
助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京［東京芸術文化創造発信助成］

ごあいさつ

6回目を迎えた「東京ドキュメンタリー映画祭」。本年から「人類学・民俗映像部門」では海外からの作品募集が開始され、応募総数が飛躍的に増えました。テーマも手法も多岐にわたるなか、作品選定にあたっては、取材対象への眼差しや関係性のあり方といった、ドキュメンタリーの持つ倫理性をあらためて意識しました。戦争などの問題や、アイデンティティ、ジェンダーのありかたを自己や社会に問う作品、海外の祭祀や音楽ドキュメンタリーなど、多彩な作品が上映されるこの映画祭が、皆様の興味や関心が深まる“出会いと発見の場”になることを願っています。

プログラマー　佐藤寛朗

12/9-15の期間に上映される長編部門、長編＋短編部門、短編部門のコンペティション・プログラムの長編、短編の各作品が観客賞の対象となります

長編部門コンペティション

『香港時代革命』

監督＝佐藤充則、平野愛/2022年/117分/日本

12/ 9(土)10:00
12/18(月)14:10

2019年、香港では自由と民主を求める大規模な抗議デモが勃発。警察の暴力に抵抗するデモ隊を、市民や学生の立場で支持し、撮影する人々がいた。しかし破壊行為への反感から政府支持の市民も現れ、デモは行き詰まる。分断の進む中、もがきながら記録を続けるトラック運転手や学生記者に密着し、激動の香港に生きる人々の姿を見つめる。

『KAKERU カケル ～舞台の裏の物語～』

監督＝ダニエル・ロベス/2021年/79分/日本

12/ 9(土)12:30
12/21(木)16:45

沖縄在住のドイツ人クラウス・フランケは、ドイツと沖縄の文化の懸け橋となるべく、ライン川を巡る音楽・演劇の舞台公演を企画する。だが資金調達は難航、100名を超える出演者の士気はなかなか高まらない。精神的にも限界まで追い込まれる中、次々と振りかかる試練を彼はどう乗り越えていくのか？ 果たして公演は、無事開催できるのか？

『メディアが伝えなかった復興物語 ～水産加工業10年の軌跡～』

監督＝田中敦子/2011–2023年/120分/日本

12/10(日)14:20
12/19(火)10:00

東日本大震災で被害を受けた宮城、岩手の中小水産加工業5社の復興過程を、経営者の視点から長期にわたって記録した作品。この10年は、再建に向けた奮闘のなか、不漁、労働力不足などの問題や、資材費の高騰、行政の助成の方針、またコロナ禍の影響等に振り回される日々でもあった。一筋縄ではいかない「復興」から見える、この国の未来とは？

『いっしょ家』

監督＝宮下浩平/2023年/99分/日本

12/11(月)12:00
12/16(土)14:40

福井県越前市にあるデイサービス「いっしょ家」では、お年寄りや発達に特性のある子ども、障がいのある人などが集い、スタッフと共にひとつ屋根の下で過ごしている。それぞれが思い思いの時を過ごす「いっしょ家」の日常を観察的にとらえながら、インタビューを交え、この“共生の空間”が入所者に果たすそれぞれの意味や想いに迫っていく。

『見えるものと見えないもの –画家 大﨑真理子のみた風景–』

監督＝筒井勝彦/2023年/69分/日本

12/12(火)16:30
12/17(日)12:10

2018年に23歳で夭折した画家・大﨑真理子。大学在学中に京都市長賞を受賞し、今後の活躍が期待されるなか、不慮の事故でこの世を去った。寡作ながら、確かなものを求めて手を動かし続けた彼女の足跡と創作姿勢を、生前の映像や関係者のインタビューを交えながらていねいに紐解き、一人の表現者の生きた証がスクリーン上に蘇る。

『奇妙な外国語、フランス語』

監督＝ニシノマドカ/2023年/83分/フランス

12/13(水)12:10
12/16(土)16:50

パリ第8大学の授業「フランス語講座」に監督のカメラが密着する。シリアやスーダン、アフガニスタンなど、自国で学業を続けることが困難な学生たちが、個性的な二人の教師に見守られ、言語の理解のみならず、フランスで幸せに生きていくための心構えやユーモア、エスプリなどを学んでいく様子が生き生きと描かれる。

『ロマンチック金銭感覚』

監督＝緑茶麻悠、佐伯龍蔵/2022年/120分/日本

12/15(金)12:15
12/16(土)10:00

監督二人が出演し、自らの生活状況を交えながら、「お金」の価値やそれに伴う人同士のつながりへの考察を深めてゆく、フィクションとドキュメンタリーが融合したユニークな作品。緑豊かな京都の里山で、作家ミヒャエル・エンデの提唱したエイジングマネー（自然に還るお金）を実践する人々の刺激的な言葉が、“価値の常識”に揺さぶりをかけてゆく。

長編＋短編部門コンペティション

南西諸島の基地問題

12/10(日)10:00
12/19(火)14:55

『ドキュメント石垣島 2023年3月 陸自ミサイル基地開設の瞬間』
監督＝湯本雅典／2023年／20分／日本

『島を守る chapter1 波紋』
監督＝川村貴志／2022年／65分／日本

自衛隊基地の問題や、防衛施設の建設が進められようとする南西諸島の状況は、本土ではあまり報じられない。2023年3月の自衛隊基地の開設や迎撃ミサイル配備を記録した『ドキュメント石垣島』。米軍訓練施設の建設が予定される鹿児島県馬毛島に隣接する種子島での政府説明と住民運動を記録した『島を守る』。二つの映像レポートから、この国の民主主義を問う。

生活と環境

12/10(日)16:55
12/18(月)10:00

『ドライブ・マイ・ソーラーキッチンカー』
監督＝太田信吾／2022年／20分／日本

『大崎から』
監督＝平田雄己、小池悠補／2023年／66分／日本

キッチンカーで焼き鳥丼屋を営む男性が、車をソーラーカーに改造し、かつて原発反対運動を共にした福島の仲間を訪ねる『ドライブ・マイ・ソーラーキッチンカー』。「ごみリサイクル日本一」で知られる鹿児島県大崎町の分別の実際に密着し、地方の抱える問題をあぶり出す『大崎から』。日々の暮らしの記録から“エコ”とは何かを問う2作。

短編部門コンペティション

戦争の「声なき声」

12/10(日)12:00
12/19(火)12:35

『祖父の空襲体験～戦争と平和を考える旅～』
監督＝木村優里／2022年／20分／日本

『星は見ている』
監督＝小川典／2022年／38分／日本

『広島の被爆樹木の声を聴く』
監督＝山本和宏／2023年／49分／日本

“海軍の街”佐世保の空襲で被災した祖父の話を起点に、現在の市民感情を掘り下げる『祖父の空襲体験』。原爆死した息子に対する母の慟哭を、女優・紺野美沙子が朗読する『星は見ている』。広島市内に今も点在する“被爆樹木”の面倒をみる樹木医を追った『広島の被爆樹木の声を聴く』。「戦争を語り継ぐこと」の現在地を知る3本。

自然との共生

12/12(火)10:00
12/17(日)15:50

『命の再燃 房総の山にキョンは鳴く』
監督＝櫻井昂希／2023年／35分／日本

『ミルクの中のイワナ』
監督＝坂本麻人／2023年／66分／日本

知られざるイワナの世界と、固有種が失われつつある問題を、美しい映像と多角的なインタビューで掘り下げる『ミルクの中のイワナ』。千葉県房総半島で大きな問題となっている害獣キョンの命と向き合い、行動する猟師たちを描いた『命の再燃 房総の山にキョンは鳴く』。人間と自然との、これからの関わり方のヒントを提示する2作品。

アイデンティティの揺らぎ

12/12(火)12:15
12/17(日)13:50

『娘より、父へ』
監督＝龍村仁美／2023年／17分／日本

『彼女の生き方 - Living and Being Alive』
監督＝田中千里／2023年／70分／日本

『娘より、父へ』は、著名な映像作家の父を亡くした19歳の監督が、父への思いと自分の決意を多彩なモノローグと映像で表現。『彼女の生き方 - Living and Being Alive』は、大学4年生の従妹が、和歌山の梅農家をはじめ、日本各地を転々としながら“自分”を発見する過程に伴走。令和を生きる若者の“自分探し”が鮮やかに浮かび上がる。

現代の家

12/11(月)14:10
12/16(土)12:30

『家は生きていく』
監督＝松井至／2023年／15分／日本

『家族の間取り』
監督＝ジョイス・ラム／2023年／21分／日本

『繁殖する庭』
監督＝繁殖する庭プロジェクト（小宮りさ麻吏奈＋鈴木千尋）
2023年／59分／日本

人間の生活を繋げる「家」とは何を示しているのだろうか。東日本大震災で被災した石巻の家に宿る記憶を辿る『家は生きていく』。シェアハウスで共同生活を営む少年と彼を見守る同居人たちの目線『家族の間取り』。「家庭」を築く制度を、建築基準法や同性婚、家族制度の目線で検証する『繁殖する庭』。「家」「家族」「家庭」にまつわる3作品。

“まちの記録”をつむぐ

12/13(水)10:00
12/18(月)12:00

© まつもとフィルムコモンズ

『KUMU 日々を組む』
監督＝児玉公広、田村さえ／2023年／23分／日本

『まつもと日和』
監督＝三好大輔／2023年／74分／日本

60年代から80年代を中心に松本市で撮影された8mmフィルムを広く公募し、多世代の市民や学生、地元アーティストと協働し上映する様子を描いた地域映画『まつもと日和』。福岡県の商店街の一角で一度は手放した「活版印刷」を取り戻し、かつての職人技を今に伝える『KUMU 日々を組む』。古きものを未来へと繋ぐ、温故知新の2作品。

カメラがたどる記憶

12/12(火)14:15
12/22(金) 9:40

『カミングアウトジャーニー』
監督＝山後勝英／2022年／52分／日本

『肩を寄せあって』
監督＝横田丈実／2023年／52分／日本

かつて世話になった人々に、自らの「これまで」と「本当の私」をカミングアウトする男性の旅に密着した『カミングアウトジャーニー』。奈良県斑鳩で20年間、共に暮らした人々との交流を、僧侶でもある監督がみつめた『肩を寄せあって』。変わるものも、変わらぬものもある時の流れと、そこに在ったかつての「自分」をみつめた2本。

人類学・民俗映像部門コンペティション

障がいと共にある暮らし

12/11(月)10:00
12/19(火)16:55

『田舎娘』
監督＝エレン・イバンス/2022年/15分/イギリス

『いつもの帰り道で安永健太さんの死が問いかけるもの』
監督＝今井友樹/2022年/30分/日本

『ダブル・ロール』
監督＝川西薫/2022年/43分/日本

発達障がいを抱えながら、馬を飼うことが生きがいのイギリス人女性を描く『田舎娘』。15年前、知的障がい者の男性が警察に取り押さえられて亡くなったことの意味を問う『いつもの帰り道で 安永健太さんの死が問いかけるもの』。母となったデフカーリング選手の決意と家族の支えを描く『ダブル・ロール』。誰もが共生できる社会のありかた、その状況を問う3作品。

人類学・民俗映像1

12/14(木) 9:40
12/20(水)11:20

『ピブロクト』
監督＝アナスタシア・シュビーナ、ティモフェイ・グリニン/2023年38分/ロシア、アメリカ

『ディタッチド』
監督＝ウラジーミル・クリボフ/2022年/64分/ロシア

ロシアの少数民族チュクチを、異なるアプローチから描いた2作品。海獣の狩猟を生業とし、自然との共生や食を通した彼らの生と死の循環を、シャーマンの儀礼音楽をバックに強い画でみせる『ピブロクト』。ツンドラの伝統的生活を離れることによるアイデンティティの喪失や高自殺率の問題を、ある男とその家族の劇的なシーンで描き出す『ディタッチド』。

人類学・民俗映像2

12/14(木)11:45
12/20(水)13:30

『ナマラリ』
監督＝ティム・ママリー/2021年/52分/オーストラリア

『ケノウ村の祭祀』
監督＝ニーク・ニコラス/2023年/67分/オランダ

アフリカとオセアニアの精神世界に迫る2作品。『ナマラリ』は、伝統的な洞窟壁画で知られる西オーストラリアのアーティスト、ドニー・ウーラグッジャの活動を20年にわたって記録する。ベナンの精霊ヴォドゥンに対する人々の祈りと生活を記録した『ケノウ村の祭祀』では、精霊と少女の結婚や、霊が宿る人形と婚姻関係を結ぶ男性、災厄を避ける祈りなどを描く。

エスニシティを超えて

12/11(月)16:20
12/17(日)10:00

『瞬間移動』
監督＝ナム・アルム、丹沢千文、苗加奈那、クォン・オヨン
2022年/22分/日本、韓国

『岸を離れた船』
監督＝黄威勝、許鴻財/2022年/30分/台湾

『アンラックの家』
監督＝山崎春蘭/2023年/45分/日本

パンデミックの時代、日韓の女性4人がアバターで連帯し、ジェンダーのありかたなどを語り合う『瞬間移動』。台湾の港町・基隆で息づく在台コリアンの女性を描く『岸を離れた船』。サンノゼのベトナム人街の家に置かれた固定カメラが、アメリカ社会を照射する『アンラックの家』。歴史や社会を越境し、躍動するアジアの監督たち。

人類学・民俗映像3

12/14(木)14:15
12/20(水)15:55

『神霊の召喚』
監督＝チョン・ウー/2022年/148分/中国

中国東北部で撮影された、シャーマンによる憑依儀礼。霊的体質の女性に向かって、霊的存在が何者かを探りながら何時間も対峙するシャーマンの儀式は圧巻。シャーマンの歌う神歌の旋律や歌詞から、この土地の民間信仰の力強さを実感できる。儀礼の始まりから終わりまでを記録した驚嘆の2時間半。

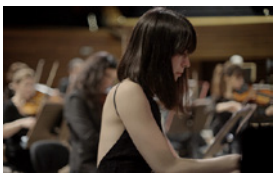
人類学・民俗映像4

12/14(木)17:10
12/20(水) 9:40

『マーゴット』
監督＝カタリーナ・アウヴェス・コスタ/2022年/72分/ポルトガル

ポルトガルの民族音楽学者マーゴット・ディアスがモザンビークで行ったフィールドワークの資料を元に、監督が現地を再訪。残された資料からマーゴットの経験を再構成し追想することで、過去・現在・未来を繋ぐ映像人類学の価値や意義が示唆される。監督・マーゴット・モザンビークの人々の、視線や思いが重なり合う1作。

音とリズム



12/13(水)14:05
12/22(金)11:55

『産業革命史』
監督＝岩田隼之介/2022年/11分/日本

『音と形 -Sound and Structure-』
監督＝柴田誠/2023年/52分/日本

『オール・ザ・グレース』
監督＝ジュリアン・ビアバン・レヴィ/2023年/53分/フランス

技能五輪全国大会に出場する技術者たちの見事な腕さばきを捉えた『産業革命史』。大阪万博から半世紀を経て、ある大学で蘇ったバシェの音響彫刻の再演『音と形 -Sound and Structure-』。パンクバンドと売れっ子ピアニストを同時期に追った『オール・ザ・グレース』。三者三様の音とリズムが、スクリーンの上で跳躍する。

人類学・民俗映像5

12/15(金)10:00
12/21(木)14:30

©SASSO CO., LTD

『ラメトッコロ ヤン』
監督＝山田裕一郎/2019年/10分/日本

『ハッピー・アイヌ』
監督＝山田裕一郎/2020年/10分/日本

特別先行上映
『フィシスの波文』
監督＝茂木綾子/2023年/85分/日本

「アイヌ語」の伝承活動に取り組む和人・関根健司の半生を紹介する『ラメトッコロ ヤン』。彼とアイヌの妻の間に生まれた娘・摩耶のアイデンティティと葛藤を描く『ハッピー・アイヌ』。太古から現代までに生まれた「文様」の多様な世界を追う『フィシスの波文』。人間の生み出した文化の「継承」をテーマにした3作品。

人類学・民俗映像6

12/15(金)14:45
12/21(木)12:20

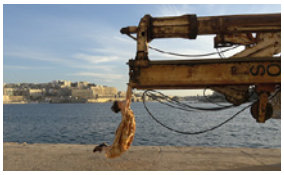
『さきわう家』
監督＝加藤優季/2023年/26分/日本

『あさがお灯籠』
監督＝青原さとし/2021年/70分/日本

愛知県の四十九日の弔いの習俗に親密な距離からカメラを向け、ささやかだが重要な瞬間を逃すことなく切り取った『さきわう家』。時代の流れのなかに消えつつある盆習俗を、広島市内の寺を実家とする監督が同郷人ならではの視点で30年かけて記録した『あさがお灯籠』。各地の特色ある仏教民俗を捉えた2作品。

特別上映

舞踏の世界



12/13(水)16:35
12/18(月)16:40

『後背・地』
監督＝ヘイケ・セルザー&アナ・ベーア/2023年/5分/マルタ

『鳩の沐浴 Ablutions』
監督＝万城目純/2023年/19分/日本

『てんかん症のオペラ舞踏』
監督＝ヴィルジニー・マルシャン/2023年/49分/アメリカ

舞踏を記録した映画の特集。2021年にも上映されたダンスユニットが、地中海のマルタ島を舞台に踊る『後背・地』。万城目純による《PERFORMATIVE LYFE》シリーズの最新作『鳩の沐浴 Ablutions』。2006年の「大野一雄100歳の日」の様子や、その前年のジョナス・メカスと監督のヴィルジニー・マルシャンの日本の旅を描いた『てんかん症のオペラ舞踏』の3本を上映。

人類学・民俗映像部門特別上映作品

追悼 岩崎雅典 海人と山人の民俗

12/21(木)10:00

©群像舎

『最後の丸木舟 吐噶喇列島中之島の記録』
監督＝岩崎雅典/1977年/55分/16mm→ビデオ/日本

『又鬼』
監督＝岩崎雅典/1982年/53分/16mm→ビデオ/日本

「福島　生きものの記録」シリーズで知られ、2021年に逝去した岩崎雅典監督。トカラ列島の中之島で、20年ぶりの丸木舟づくりを追った『最後の丸木舟』(1977)。秋田県の山深く、マタギたちのクマ狩りと山人の精神を描いた『又鬼』(1982)。日本の南北の民俗文化を捉えた初期2作品を追悼小特集として上映する。

東京プレミア上映

『ファニーズ』

監督：山城智二/2023年/98分/日本

12/22(金)14:25

1990年代の沖縄で絶大な人気を誇った漫才コンビ「ファニーズ」。ツッコミ担当・山城達樹は、自らプロダクションを設立、戦後脈々と受け継がれてきた沖縄のお笑いを組織化し人々に届けようとしていたが、人気絶頂の26歳の時に急逝する。またたく間に駆け抜けた彼の人生が遺したお笑いの精神を、実弟の山城智二が巡るセルフドキュメンタリー。

クロージング上映

『りりィ 私は泣いています』

監督＝高間賢治/2023年/108分/日本

12/22(金)16:30

2016年に64歳で惜しくも亡くなった女優・シンガーソングライターのりりィ。彼女が晩年に精力を注いでいた「りりィ＋洋士」のライブを観て惚れ込んだカメラマンの高間賢治が、自費でその活動を撮影し続けた。今なお輝きを放つ歌声を記録したライブ映像に、親友・研ナオコら関係者の証言を加えた高間の初監督作品を特別に上映。

特集上映&トークセッション

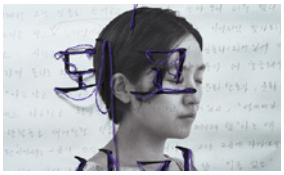
「より安全・安心に参加できる映画の現場を目指して」

本年8月に前プログラムディレクターが辞任した問題を受け、本映画祭では、誰もが安全・安心に参加できる映画の現場（映画祭を含む）のあり方を、作品上映とトークセッションを通して考える機会を設けます。実際のドキュメンタリー映画や、現場を預かる運営者の実例を踏まえながら、ハラスメントのない、互いの尊厳を尊重できる映画界にするためのポイントを具体的に考えます。

作品上映

『アフター・ミー・トゥー』

監督＝パク・ソヒョン、イ・ソミ、カン・ユ・ガラム、ソラム/2021年
85分/韓国



12/ 9(土)14:30

©2022 GRAMFILMS. ALL RIGHTS RESERVED

2018年以降、韓国でも大きく広がった「#Me Too」運動の3年後の姿を、世代の異なる4人の女性監督が集まって制作されたオムニバス・ドキュメンタリー。学校やアートの現場で参加した人たちのその後や、運動から取りこぼされた中年女性、加害・被害の区分けが難しいグレーゾーンをテーマにした作品など、「#Me Too」の先にある課題を問いかける。

トークセッション

「より安全・安心に参加できる映画の現場を目指して」

12/ 9(土)16:40

※ 詳細・ゲストは映画祭公式サイトにて発表します
※ 映画祭プログラムチケットの半券をお持ちの方は、無料で入場できます

TIME TABLE

12.9 Sat — 22 Fri

12/ 9(土)	10:00 長編 『香港時代革命』(117分)	12:30 長編 『KAKERU カケル ～舞台の裏の物語～』(79分)	14:30 特集 『アフター・ミー・トゥー』(85分)	16:40 特集 トークセッション 「より安心・安全に参加できる 映画の現場を目指して」
12/10(日)	10:00 長編+短編 南西諸島の基地問題(85分)	12:00 短編 戦争の「声なき声」(107分)	14:20 長編 『メディアが伝えなかった復興物語 ～水産加工業10年の軌跡～』(120分)	16:55 長編+短編 生活と環境(86分)
12/11(月)	10:00短編 障がいと共にある暮らし(88分)	12:00 長編 『いっしょ家』(99分)	14:10 短編 現代の家(95分)	16:20 短編 エスニシティを超えて(97分)
12/12(火)	10:00 長編+短編 自然との共生(101分)	12:15 長編+短編 アイデンティティの揺らぎ(87分)	14:15 短編 カメラがたどる記憶(104分)	16:30 長編 『見えるものと見えないもの画家 -大﨑真理子のみた風景-』(69分)
12/13(水)	10:00 長編+短編 “まちの記録”を紡ぐ(97分)	12:10 長編 『奇妙な外国語、フランス語』(83分)	14:05 短編 音とリズム(116分)	16:35 特別 舞踏の世界(73分)
12/14(木)	9:40 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像1(102分)	11:45 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像2(119分)	14:15 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像3(148分)	17:10 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像4(72分)
12/15(金)	10:00人類学・民俗映像 人類学・民俗映像5(105分)	12:15長編 『ロマンチック金銭感覚』(120分)	14:45 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像6(96分)	16:55 各賞授賞式 ※入場無料
12/16(土)	10:00 長編 『ロマンチック金銭感覚』(120分)	12:30 短編 現代の家(95分)	14:40 長編 『いっしょ家』(99分)	16:50 長編 『奇妙な外国語、フランス語』(83分)
12/17(日)	10:00 短編 エスニシティを超えて(97分)	12:10 長編 『見えるものと見えないもの画家 -大﨑真理子のみた風景-』(69分)	13:50 長編+短編 アイデンティティの揺らぎ(87分)	15:50 長編+短編 自然との共生(101分)
12/18(月)	10:00 長編+短編 生活と環境(86分)	12:00 長編+短編 “まちの記録”を紡ぐ(97分)	14:10 長編 『香港時代革命』(117分)	16:40 特別 舞踏の世界(73分)
12/19(火)	10:00 長編 『メディアが伝えなかった復興物語 ～水産加工業10年の軌跡～』(120分)	12:35 短編 戦争の「声なき声」(107分)	14:55 長編+短編 南西諸島の基地問題(85分)	16:55 短編 障がいと共にある暮らし(88分)
12/20(水)	9:40 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像4(72分)	11:20人類学・民俗映像 人類学・民俗映像1(102分)	13:30 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像2(119分)	15:55 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像3(148分)
12/21(木)	10:00 特別 追悼 岩崎雅典 海人と山人の民俗(108分)	12:20 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像6(96分)	14:30 人類学・民俗映像 人類学・民俗映像5(105分)	16:45 長編 『KAKERU カケル ～舞台の裏の物語～』(79分)
12/22(金)	9:40 短編 カメラがたどる記憶(104分)	11:55 短編 音とリズム(116分)	14:25 特別 『ファニーズ』(98分) ※東京プレミア上映	16:30 特別 『りりィ 私は泣いています』(108分) ※クロージング上映

12/9-15の期間に上映される長編部門、長編+短編部門、短編部門のコンペティション・プログラムの長編、短編の各作品が観客賞の対象となります

【東京ドキュメンタリー映画祭事務局】
プログラマー：佐藤寛朗　澤山恵次　津留崎麻子　井河澤智子　吉田悠樹彦　若林良　田淵絵美　竹田史佳
人類学・民俗映像部門予備選考：遠藤協　山上亜紀　長本かな海｜顧問：矢田部吉彦
チラシデザイン：鈴木規子｜チラシ編集協力：菊井崇史
主催：neoneo編集室｜後援：一般財団法人 宮本記念財団｜協賛：エトノスシネマ
助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京［東京芸術文化創造発信助成］
協力：ストロール　群像舎　エコーズ
問い合わせ先メール：tdff.neoneo@gmail.com（東京ドキュメンタリー映画祭事務局）

監督による舞台あいさつを予定!
詳細は公式サイトやSNSでご確認ください

tdff-neoneo.com
𝕏（旧Twitter）@TDFF_neoneo
tdff.neoneo
@tdff.neoneo

一般:1500円/大・高・シニア:1200円/小・中・障がい者:1000円
※ご鑑賞の3日前0:00より上映時間の30分前まで劇場サイトよりチケットがご購入いただけます。

【特別鑑賞券発売中!】
1回券:1300円/3回券:3300円
劇場窓口および映画祭事務局で販売　※Web予約では使用できません。窓口にて指定席券とお引き換えください。

新宿駅東南口階段下ル 甲州街道沿ドコモショップ左入ル
新宿 K's cinema
03（3352）2471 www.ks-cinema.com
各回入替・全席指定席